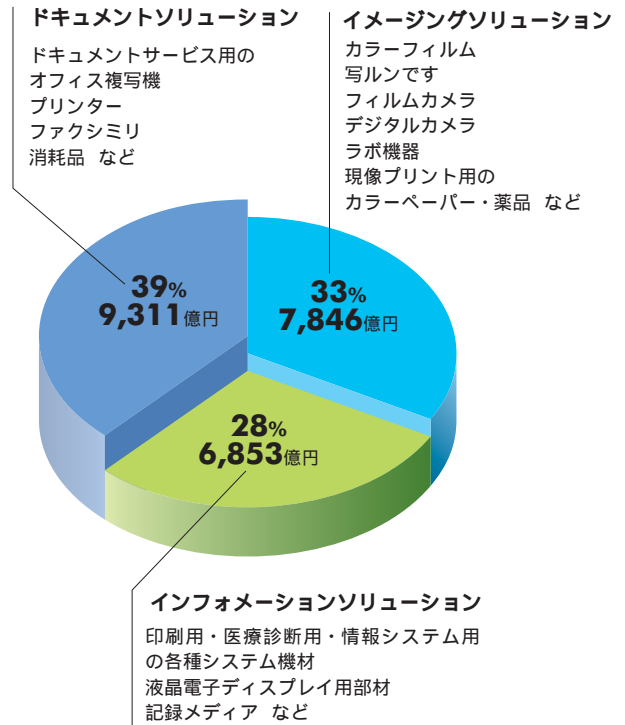


会社概要

会社名	富士写真フイルム株式会社
設立	1934年1月20日
本社	神奈川県南足柄市中沼210
東京本社	東京都港区西麻布2-26-30
資本金	40,363百万円(2002年3月末現在)
従業員数	9,736名(単独)、72,569名(連結)(2002年3月末現在)
売上高	8,477億円(単独)、2兆4,011億円(連結)(2002年3月期)
当期純利益	571億円(単独)、813億円(連結)(2002年3月期)
連結子会社数	173社(2002年3月末現在)

売上構成比(2002年3月期 連結)



2001年度の富士フイルムグループの事業概要

イメージング、インフォメーション、ドキュメントの各分野で、デジタル技術・ネットワーク技術を活用したトータルソリューションの提供を積極的に展開しました。具体的には、液晶電子ディスプレイ用部材の生産能力の増強、小型デジタルミニラボの市場導入、中国市場におけるデジタルカメラの生産・販売拠点の拡大、米国の印刷関連市場に対する販売体制の強化などが挙げられます。

当期の連結売上高は、富士ゼロックスが連結子会社となったことおよび為替が円安で推移したことにより、2兆4,011億円(前期比73.6%増)となりました。このうち国内売上高は1兆3,552億円(前期比106.6%増)、海外売上高は1兆459億円(前期比43.8%増)です。税引前利益は1,595億円(前期比20.1%減)、当期純利益は813億円(前期比31.0%減)となりました。

*税引前利益および当期純利益の対前年度比が大きく減少しているのは、前期に一過性の退職給付信託設定益が含まれているからです。

イメージングソリューション部門

カラーフィルム：35mmフィルム「SUPERIA」とAPSフィルム「nexia」の拡販

レンズ付フィルム：「写ルンです史上 最高画質」の「写ルンですエクセレント」、センサー付きフラッシュを搭載した「写ルンですスペシャルEye800」を発売

APSコンパクトカメラ：アクセサリ感覚の「nexiaQ1」を発売

デジタルカメラ：高音質の音楽も楽しめる「FinePix50i」、第三世代スーパーCCDハニカム搭載モデル「FinePix F601」を発売

フォトフィニッシング：デジタルミニラボ「フロンティア330」をラインアップに追加

その他：写真プリントの普及拡大のためのFDiネットサービスなどのインフラ整備

インフォメーションソリューション部門

印刷システム関連製品：CTP(コンピュータ・ツー・プレート)システムとオンデマンド印刷システムをはじめとしたソリューションビジネスを強力に推進

情報システム関連製品：インクジェット用紙「画彩(かっさい)シリーズ」のラインアップ強化

医療診断用製品：コンパクトなデジタルX線画像診断システム「FCR Pico SYSTEM」の本格発売開始。小型ドライイメージャー「DRYPIX3000」の好調な販売

産業用材料製品：液晶電子ディスプレイの視野角を拡大する「WVフィルム」の好調な販売

記録メディア製品：ATOMM技術搭載の大容量バックアップ用テープ「LTO Ultrium1」などを積極拡販

ドキュメントソリューション部門(2001年度より新設)

カラー商品力を高める次世代の新トナー「乳化重合凝集法トナー(EAトナー)を開発・市場導入

カラー複合機「DocuCentre Color 400 CP/320 CP」は高画質と優れたコストパフォーマンス、省エネルギーなどにより好調な販売

中国市場におけるドキュメント事業の立ち上げと日本電気およびその子会社で行っていたレーザープリンター事業を取得